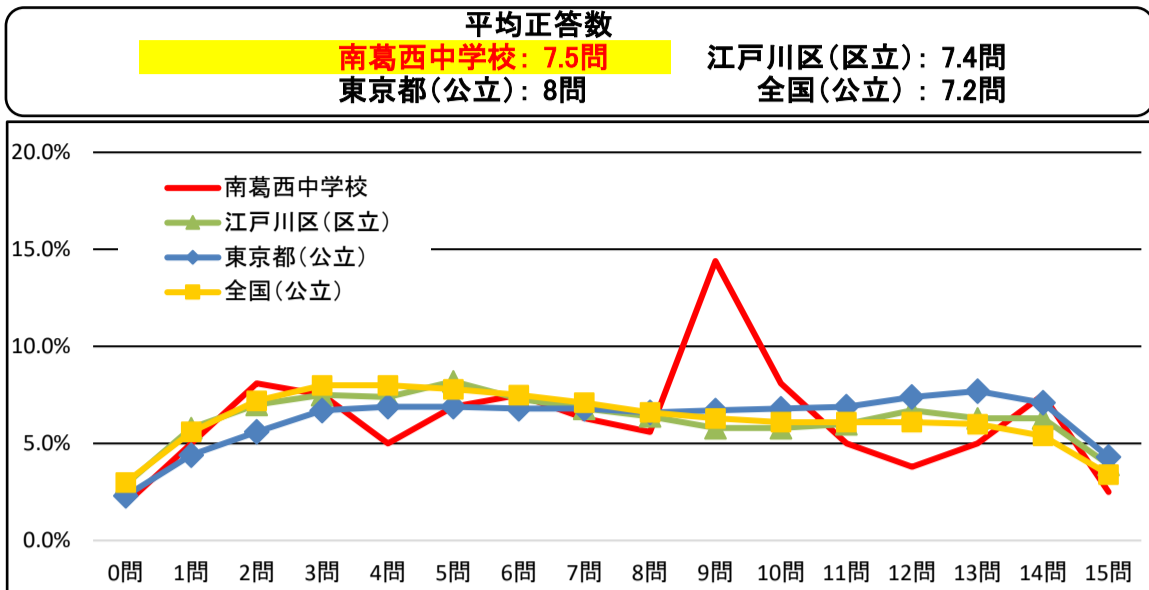


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】南葛西中学校

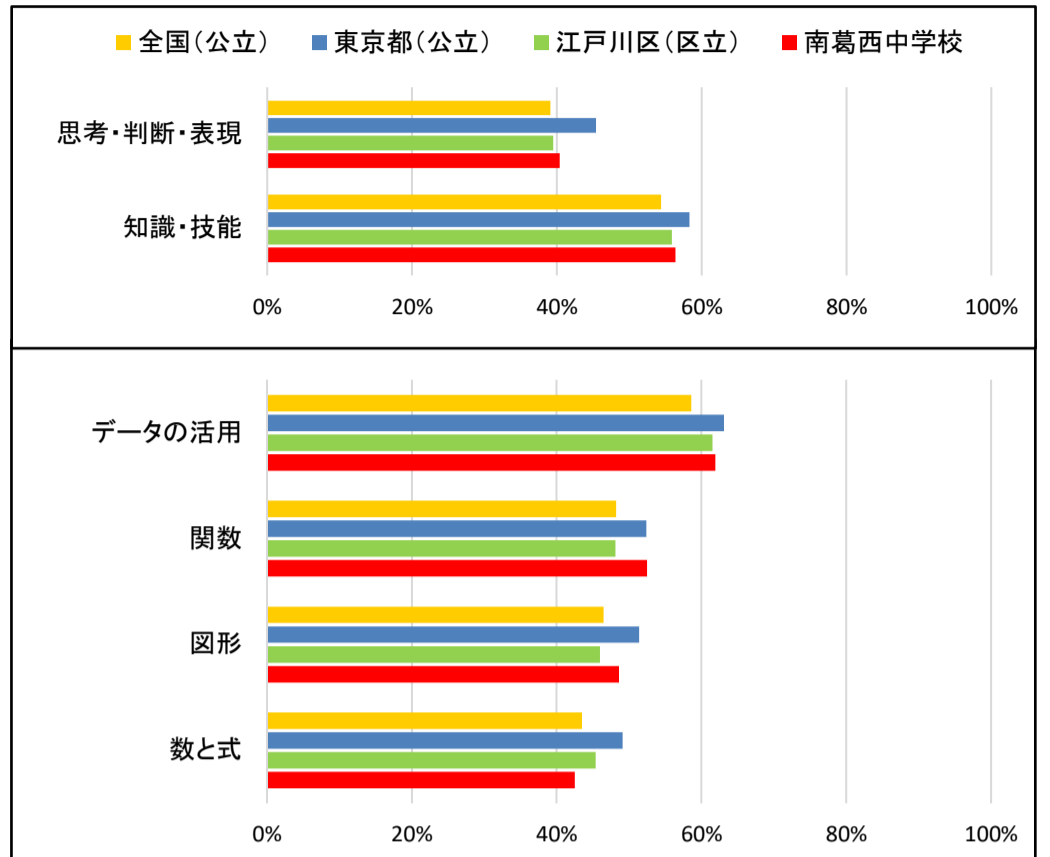
正答数分布



【平均正答率の差】

南葛西中学校	50%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	-3.0

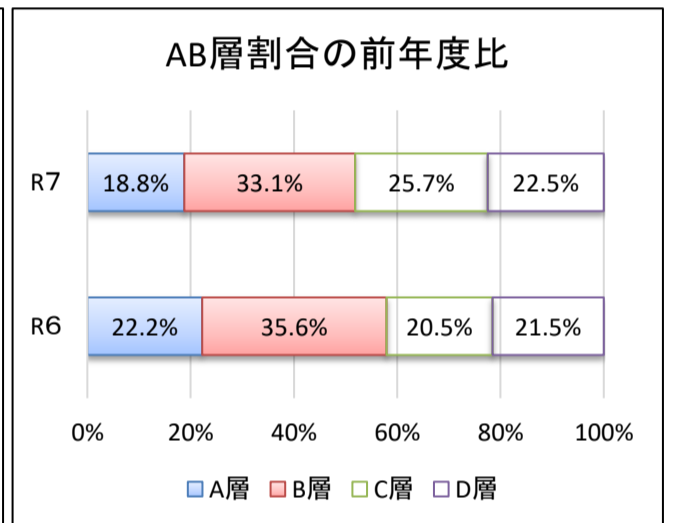
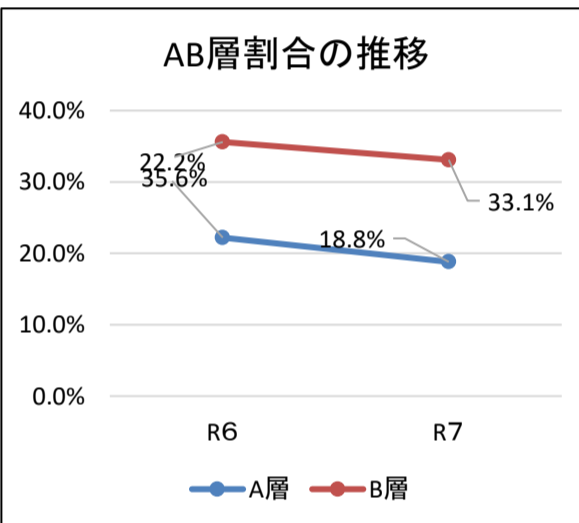
「領域別」の結果



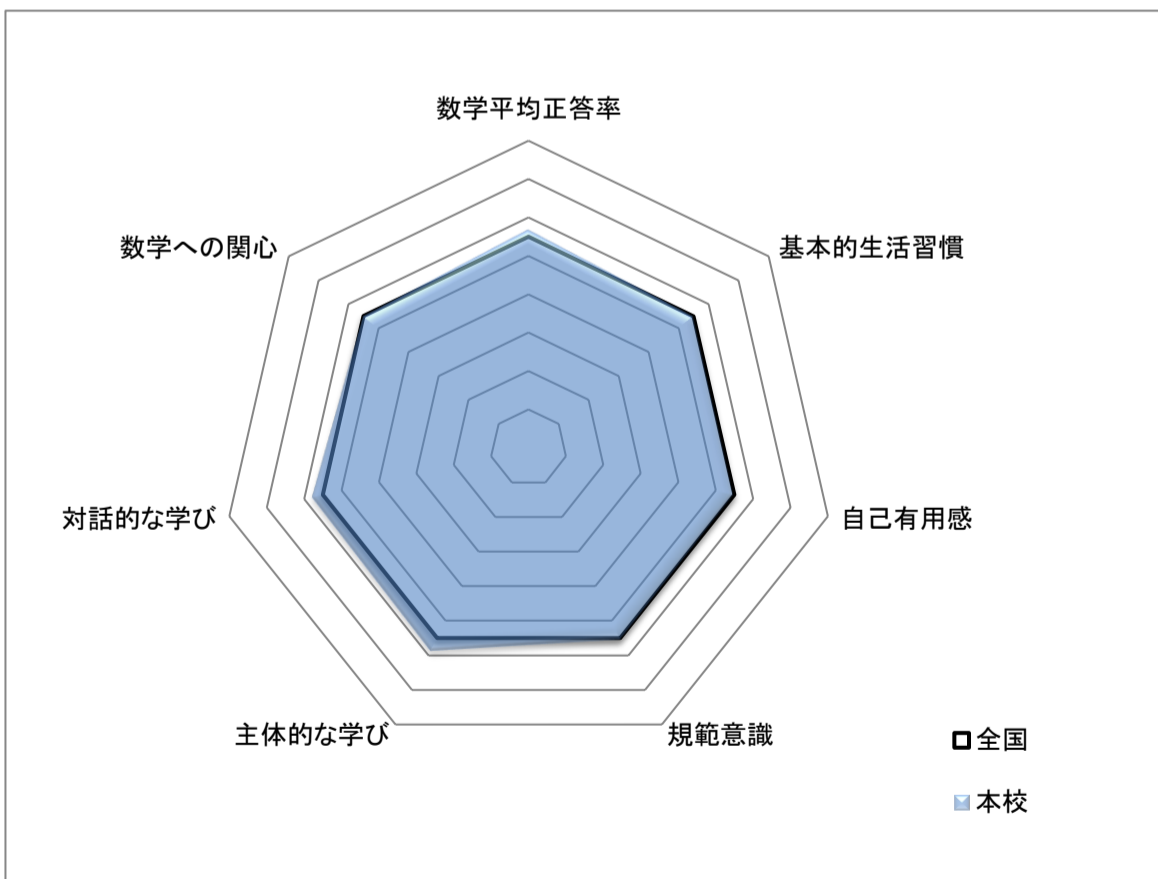
四分位における割合(都全体の四分位による)

数学	上位 ← 下位			
	A層 12~15問	B層 8~11問	C層 4~7問	D層 0~3問
南葛西中学校	18.8%	33.1%	25.7%	22.5%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

平均正答率では全国平均を上回った。数学への関心では全国平均を下回った。生徒質問紙の回答については、主体的な学びや対話的な学びについて値が比較的高い。それに対し基本的な生活習慣の項目の値がやや低い。全国平均を大きく下回る項目はなかった。

《家庭・地域への働きかけ》

学校教育に対して理解を示し協力的な家庭が多い。三者面談や保護者会、学年だより、学校HPなどとおして本校生徒の課題について周知し、改善を働き掛けるとともに、学校・家庭・地域が協力して生徒の学力の向上、学校生活の安定を図っていく。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
 - ・全国平均との比較 -0.3ポイント
 - ＜知識及び技能＞が+1.9ポイントである。
 - ＜思考力判断力表現力等＞が-1.8ポイントである。
 - ・都平均との比較 -3.0ポイント
 - ＜知識及び技能＞が-1.7ポイントである。
 - ＜思考力判断力表現力等＞が-3.6ポイントである。
- ・AB層の割合について
 - 全国平均との比較 +1.2ポイントである
 - 都平均との比較 -6.3ポイントである。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

研究授業の実施を通して、生徒の学びを深める授業づくりを全校で共有している。授業後には協議会を開き、授業者の意図や生徒の反応をもとに、指導法の改善点や成果を明確化している。また、授業を観合う会を定期的実施し、互いの授業を参観しあうことで、多様な指導方法や学習活動の工夫を学びあっている。さらに、教科アドバイザーの訪問を受け、専門的な立場から指導助言を得ることで、研究授業の指導案検討や授業改善に具体的な示唆を得ている。これらの取り組みを通して、教員間の実践的な学びあいが促進され、指導技術の向上と授業の質的改善につながっている。

・基礎学力の保障

数学単元別検定を実施し、全員の3級(基礎問題)合格を目指している。必要に応じて補習教室を行い、基礎学力の定着を図っている。習熟度別少人数授業を行い、それぞれのレベルにあった内容で授業を行っている。また、教科書に掲載されている基本の問題をもとに、小テストを作成し、定期的実施することで、学習内容の定着を確認している。委託業者から講師を招き、放課後の時間を使ってC、D層向けの補習教室を行っている。

・学習習慣の確立

授業内容をしっかり理解させ、自分の力で問題が解けるようになることで、「わかることの楽しさ」「できる喜び」を感じられるように授業を行っている。授業が分かることで、学習への意欲も自然に高まり、主体的に学ぶ姿勢が育っていく。
また、ミライシードのドリルパークを活用して、授業内で学んだことを家庭でも振り返れるように問題を配信し、家庭学習の定着を図っている。

・AB層の育成

少人数のクラス分けは、習熟度別で行っている。定期考査の結果でその都度クラス替えを行っている。発展クラスは教科書の内容の理解を深めることはもちろん、教科書に載っていない発展的な内容まで授業で扱い、様々な問題を解く機会を設けている。
また、標準クラスでは、繰り返しの問題演習で学習内容の定着を図っている。さらに、「教え合い活動」を取り入れ、生徒たちだけで問題解決を行わせることで、自信をもたせるように意識している。